

下を向いて歩こう

涙はこぼれますが、発見もあります

姫路駅屋上から城を見る（道は大手前通）



JR姫路駅北口から外に出ると、正面に大天守が聳えています。「さすが姫路城！」と感ずる方も少なくないはず。これで駅前と城までのメインストリートが整然としていたら文句の一言もないのですが、そこは風土。それも含めて姫路なのです。

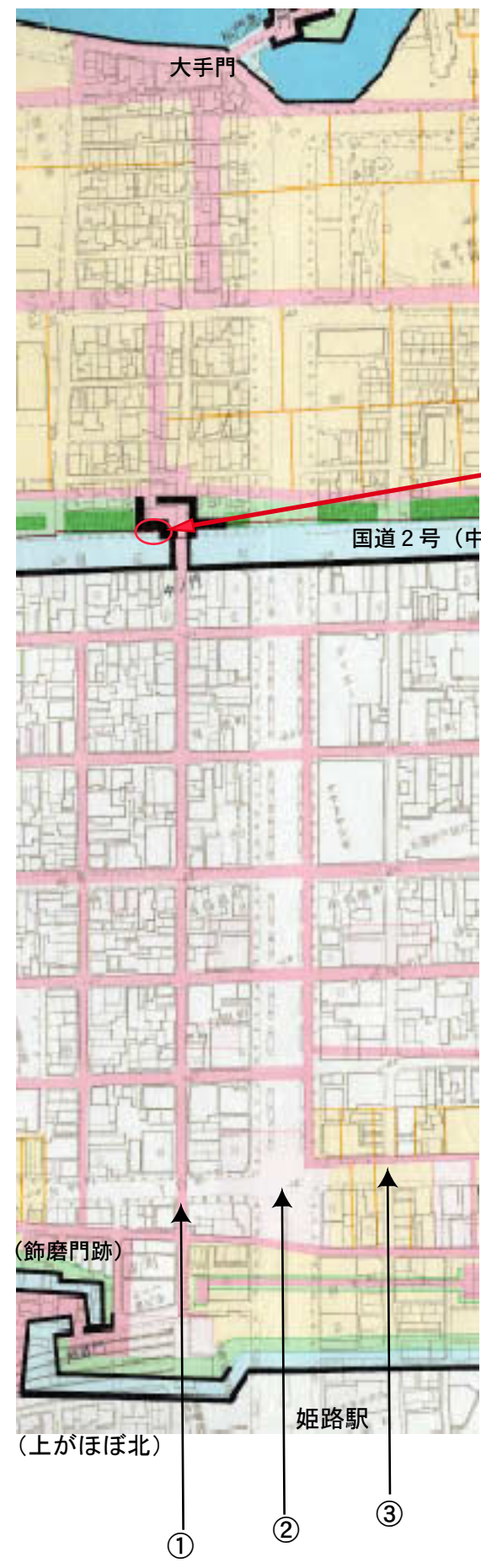
最近では自動車で姫路へ観光に来られる方が多いようですが、その方は少し損をしています。なぜなら、姫路城のほんの一部しか見えてないからです。その点、鉄道で来られた方はラッキーです。姫路城の半分以上を見られるのですから。

なぜこういうことを言うのか。意外と知らない人が多いのが、姫路城の本来の規模です。姫路駅を降り、少し邪魔なおブジェを避けて天守を眺めたとき、そこが姫路城の南端なのです。つまり、江戸時代の惣構があった場所です。そこから城に向かって歩いていくと、国道2号線を横断します。ここがかつての中堀。土塁が綺麗に残っていて、柵形虎口の石垣も実見できるのです。そして大手門を入ると、目の前に天守が姿を現します。

姫路城は外曲輪・中曲輪・内曲輪と大きく3つの曲輪から構成されています。この3つを体感しなければ、姫路城に来た意味は半減してしまいます。それに城下町の古い佇まいは皆無ですが、かつての城下には多くの商店があり、江戸時代に繁華で有名だった姫路町の雰囲気も少し残っています。

天守—土産屋—駐車場 これだけでももったいないです。せっかく姫路に来たなら、町もぶらぶら歩いて見てください。たまたま入った喫茶店でおいしいコーヒーの一杯にでも出会えたらうれしいじゃないですか？

Remember? 「築城400年」 ②



国道2号線はかつての中堀。歩道に鉄平石が張られている箇所があります。それは石垣が出土した場所を示しています。下の写真は総社門跡の様子で、車道にも石垣の跡を表示し、歩道上では排水暗渠跡と、石垣の断面を模式的に立体表示しています。派手な演出はありませんが、下を見て歩くと、こうした姫路城の広がりや建物以外の施設のあり方を知ることができるのです。



姫路市街の街路は、旧城下のそれをほぼ踏襲しています。②が現在のメインストリートとなる「大手前通」で、戦災を受けた市街の復興事業で造られました。③は「御幸通」で、今でも大きなアーケード商店街となっています。「大手前通」ができるまでのメインで、明治の終わり頃、天皇家行幸の際に敷設された道です。そして①が豎町筋。江戸時代、姫路町の南北の中心となる街路でした。その北端にあったのが中ノ門で、榊原時代の絵図には「大手門」と書いているものもあります。

天守から町を眺めたら、こんどはその町中も歩いてみてください。



"Shiro Fumi" No.34 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.